

会員の声

定期予防接種における同時接種について

ミヤガワ ケイコ オジマ トシユキ
宮川 桂子* 尾島 俊之^{2*}

小さな子供をつれて海外で生活し、日本へ戻ってこられた方は、恐らく同様の経験をされているのではないかと思うのが、日本での子供の予防接種のあり方が随分違うと気づくことである。筆者らはそれぞれ、子供を連れてイギリスやアメリカに在住した経験を持つ。イギリスでは、子供が風邪などで受診するたびに予防接種歴をチェックされ、足りないものを接種された。アメリカでは、就学時に必要な予防接種を指摘された。子供が生まれたときには、健診のたびに必要な予防接種を複数受け、次回の必要な予約をその場で取った。どの場合も、親として、次はどの予防接種に、いつ行けばいいのか、と考える必要はなかったのである。もちろん、役所から通知が来たこともない。

2年前、宮川が日本に戻り、保健行政に携わる立場に立ってみて、初めて、予防接種行政の難しさを認識した。なぜ行政がこれほどまでに頑張らなければならないのか、なぜ、接種率がなかなか上がらないのか、その結果、例えば、沖縄県だけで、平成9～11年にかけて麻疹の大流行が起り乳幼児9名が死亡していたことを知った。予防接種の順番が難しい、優先順位がわからない、と言われるが、イギリスやアメリカではもっと多くの予防接種があり高接種率を維持しているのに、日本ではなぜ難しいのか、という疑問を著者らはもった。

理由は色々考えられるが、根本的には、国の予防接種への基本的な姿勢が、「予防接種率を上げる」という公衆衛生上の命題よりも、「責任の問われない」法令と体制作りにより主眼が置かれていることによるのではないか、と思われる。これは、日本にとっては不幸なことであるが、国の責任とともに、ごくまれな副反応をセンセーショナルに

取り上げる一方、ワクチンを接種しなかったために重篤な病気になったり死亡したりした多数の不幸な例を無視してきた、マスコミや一部の専門家の責任も追及されるべきではないだろうか。

接種率向上に寄与する重要な方法の一つとして、同時接種（同じ日に複数の予防接種をすること）がある。これが、日本では基本的に制限されている。なぜか。

昭和51年に厚生省から出された「予防接種実施要領」の中で、他の予防接種との関係として、「混合ワクチンを使用する場合を除き、二種類以上の予防接種を同時に同一対象者に行うことは、避けること。」とされた。その理由として、木村ら¹⁾は、(1)副反応発現の際の無用の混乱を避けるため、(2)生ワクチン同士では免疫産生のうへで干渉がありうるという2つを挙げている。しかし、同時に、現行ワクチン同士での明らかな干渉現象がおこる証拠はあげられていないともしている。

平成6年の予防接種実施要領の改正によって、ワクチンの種類毎に接種間隔が明示されるとともに、「(2)... 二種類以上の予防接種を同時に同一対象者に対して行う同時接種は、医師が必要と認めた場合に限り行うことができること。」という記述に改正され、同時接種への道が開かれた。しかし、何をもって「医師が必要と認めた場合」とされるかの指標がないために、現実には、副反応発生時の責任追及を恐れ、同時接種を非常に限定的な事情に限る、あるいは出来るだけ避けたいとする医師・行政関係者が多いのである。

一方、予防接種の同時接種を行っても安全性や有効性が変わらない、という医学的な研究は多数出されており^{2,3)}、それらの根拠に基づいて同時接種をさらに広く普及しても良いのではないかと著者らは考えている。実際、WHOを初め、ほとんどの国のポリシーは、接種率を上げるために、むしろ、同時接種を推奨しており⁴⁻⁷⁾、日本のように同時接種を制限している国を見つけることが難しい。

同時接種が広く行われるようになれば、予防接種だけのために受診する回数を格段に減らすことができ、接種率向上に大きく寄与すると思われる。その結果、予防接種で防げる病気による重篤な状態に陥る子供たちを多数救える。また、予防接種の種類や数も、世界的な標準に随分後れを取

* 沖縄県中央保健所

^{2*} 自治医科大学公衆衛生学
連絡先：〒902-0076 沖縄県那覇市与儀 1-3-21
沖縄県中央保健所 宮川桂子

っているが、同時接種の導入により増やせるものと思われる。今後、接種率を確実に上げるための方策について真剣に検討が行われ、その有力な方法のひとつとして同時接種の適用・導入に関する論議が盛んになることを期待したい。

(受付 2005.10.27)
(採用 2006. 2.20)

文 献

- 1) 木村三生夫, 平山宗宏編著. 予防接種の手びき 第三版. 東京: 近代出版, 1980; 41.
 - 2) Deforest A, Long SS, Lischner HW, et al. Simultaneous administration of measles-mumps-rubella vaccine with booster doses of diphtheria-tetanus-pertussis and poliovirus vaccines. *Pediatrics* 1988; 81: 237-46.
 - 3) King GE, Hadler SC. Simultaneous administration of childhood vaccines: an important public health policy that is safe and efficacious. *Pediatr Infect Dis J* 1994; 13: 394-407.
 - 4) CDC. General Recommendations on Immunization. *MMWR* 2002; 51(RR02): 1-36.
 - 5) Government of United Kingdom Department of Health. Green Book. 1996.
 - 6) Australian Technical Advisory Group on Immunization of the Australian Government Department of Health and Ageing. *The Australian Immunization Handbook* 8th Edition. 2003.
 - 7) WHO. *Immunization in Practice*. 2004.
-